

# 富岡町災害復興計画（第二次）

## ～ 概要版 ～



1. 二次計画の必要性と作成経緯

① 必要性

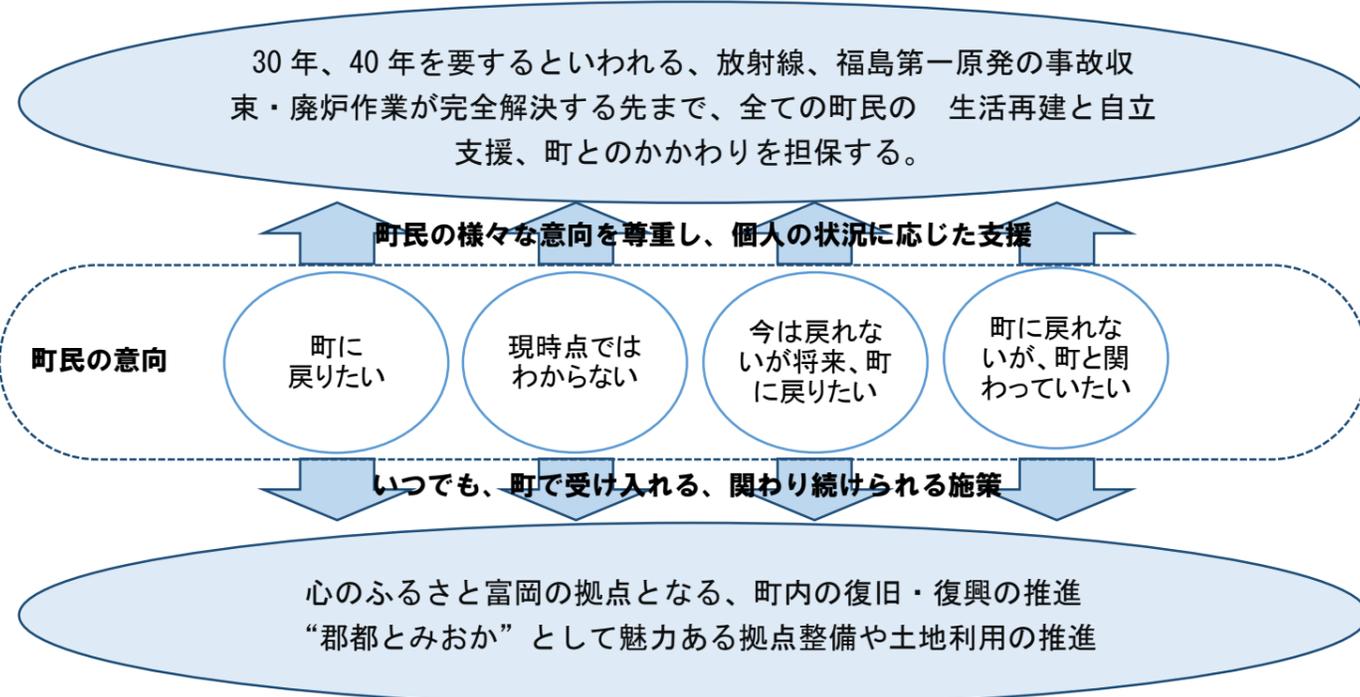
- 富岡町災害復興計画（第一次）策定以降、避難指示区域の再編をはじめ町民と町を取り巻く状況が大きく変化。
- 社会状況の変化と時間の経過に伴い、復興に対する町民のニーズが多様化・複雑化。
- 新たな計画による、町民一人ひとりに寄り添った復旧・復興のさらなる加速化が必要。

② 作成経緯

- 「帰還に関する個人の多様な選択要望に応える計画内容」とするため、公募町民 30 名並びに町職員 26 名の計 56 名からなる検討委員会を立ち上げ。
- 昨年 8 月から 10 ヶ月間にわたり、住民意向調査や子どもアンケート、町政懇談会などでの意見を丁寧に分析し、100 時間におよぶワークショップにより課題抽出と課題解決のための施策アイデアを検討。
- 検討委員会の施策アイデアは、国・県・有識者と町職員で構成する「政策化会議」を経て主要施策として体系化し、重要度の高いものを重点プロジェクトとして位置づけ。

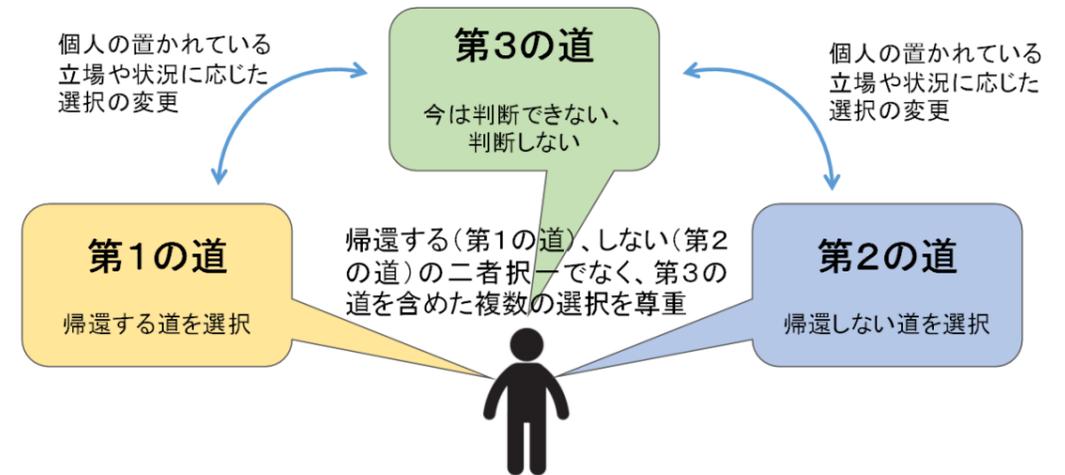
2. 計画の要点

【スローガン】 どの道を選んでも、ふるさとに誇りを感じ、富岡のつながりを保ち続けられる町  
これから加わる仲間も居心地よく親しめる地域をめざして



① 町民一人ひとりのあらゆる選択を尊重する町の姿勢を明示

- 「第3の道」の提示と受容



② 帰還時期の考え方の確認

- 早ければ2017（平成29）年4月の帰還開始を目指す。
- 避難指示解除に対しては、考慮すべき要件を十分に検証するとともに、町民の意見を広聴したうえで判断する。

③ 町民一人ひとりの心の復興を図るソフト政策と町内の復旧・復興を推進するハード政策を両輪とする具体的施策の展開

- 【基本理念1】 町民一人ひとりの“心”の復興
- 【基本理念2】 町民の心をつなぐ“ふるさと富岡”の復興

④ 優先度の高い施策を重点プロジェクトとして位置づけ

- 政策目的別に位置づけた12のプロジェクトを重点的に推進

⑤ 町の再生を支える土地利用方針の提示

- 町の社会インフラを最大限活用し、震災前よりも魅力ある土地利用を実現

⑥ 町民の意向（立場）に即した施策の提示

- 町民一人ひとりのあらゆる選択を尊重した施策を展開

# 富岡町災害復興計画(第二次)の構成

## はじめに

町民中心の検討委員会での議論を踏まえ、計画策定の前提とすべき町の基本的姿勢を示しています。

### 【スローガン】

どの道を選んでも、ふるさとに誇りを感じ、富岡のつながりを保ち続けられる町  
これから加わる仲間も居心地よく親しめる地域をめざして

- 富岡町は、帰還する【第1の道】・しない【第2の道】の二者択一ではなく、今は判断できない(しない)【第3の道】を含めたあらゆる町民の意向を尊重します。
- 町民の町との関わりの継続や将来帰還、さらに新たな住民も含め、魅力あるまちづくりを進めていきます。

## 第1章

### 富岡町災害復興計画(第二次)策定にあたって

計画策定にあたって踏まえるべき富岡町の復興を取り巻く状況、さらなる復興を進めるうえでの計画の位置づけ、帰還時期の考え方等を示しています。

- (1) 富岡町の復興を取り巻く状況 (2) 二次計画の目的と位置づけ
- (3) 計画の対象 (4) 計画の期間 (5) 期間の時期の考え方と考慮すべき要件

### 【帰還時期の考え方】

- 早ければ2017(平成29)年4月の帰還開始を目指します。
- 町は帰還に向けた環境整備を進めるとともに、町民の皆さんの意見を踏まえ避難指示解除に関する判断を行っていきます。

## 第2章

### 基本理念と基本方針

さらなる復興に向けて町が進むべき方向を基本理念とし、基本理念を具現化するための方針を示しています。

基本理念1  
町民一人ひとりの“心”の復興

基本理念2  
町民の心をつなぐ“ふるさと富岡”の復興

基本方針1  
生活の再建

基本方針2  
町内の復旧・復興

基本方針3  
絆づくり

基本方針4 情報発信

基本方針5 実施体制づくり

## 第3章

### 基本方針を実現するための重点プロジェクト

検討委員会で考えた基本方針を実現するための施策とその優先度を踏まえ、特に重点的に進めるべき施策を、「重点プロジェクト」として位置づけています。

#### 1. 生活再建支援プロジェクト

- 1-1 ふるさと富岡の心のつながりづくりの推進
- 1-2 町民ニーズの把握と自立を目指した個別支援の強化・見える化
- 1-3 公営住宅の整備と町内の土地建物管理の支援

#### 2. インフラ復旧・拠点整備プロジェクト

- 2-1 住民のための復興拠点の整備
- 2-2 町と町民がともに考えた復興祈念公園
- 2-3 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備

#### 3. 産業再生・創出プロジェクト

- 3-1 農業・農地再生に向けた取り組み
- 3-2 エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 3-3 「イノベーション・コースト構想」拠点施設等の誘致・具現化

#### 4. 福祉・教育プロジェクト

- 4-1 子どもたちの意向の尊重と子供の教育環境の整備
- 4-2 心身ともに健康で安心して生活ができる医療・福祉の充実
- 4-3 町民の放射線健康管理の充実

## 第4章

### 土地利用方針

町の再生を支える魅力ある土地利用を図るため、町の社会インフラを最大限活用した土地利用の方針を示しています。

## 第5章

### 分野別 施策・事業

基本方針を実現するためのすべての施策を、分野別に示しています。

## 第6章

### 意向別 施策・事業

どの道を選んでも、ふるさとに誇りを感じ、富岡のつながりを保ち続けられる町を実現するための施策を、意向別に示しています。

## 第7章

### 計画の推進

計画を確実に推進していくため、町民と町が協働する実施計画の策定について示しています。

# 基本方針を実現するための12の重点プロジェクト

## 1. 生活再建支援プロジェクト

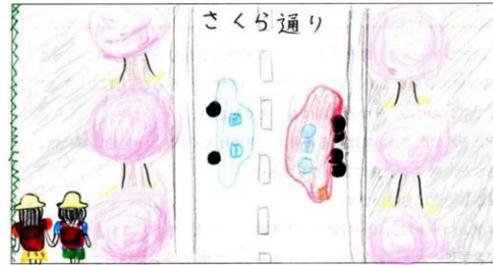
### 1-1 ふるさと富岡の心のつながりづくりの推進

#### ①ニーズ把握と個人の状況に応じた支援

- 年代、性別、多様化する居住地など、個人の状況に対応できる取り組みを推進
- 支援の取り組みや税に関する情報などをわかりやすく発信
- 町内の復旧・復興状況の発信や避難先での交流情報の発信・相談機会を強化
- 子どもアンケート継続や個人別意向調査の実施によるニーズ把握

#### ②自立を促す支援の検討と推進

- 心身の健康維持のための相談会・健康イベントの開催・継続
- 就労意欲増進に向けた各種支援の紹介
- 仮設住宅から災害・復興公営住宅への移行促進
- 様々な手続きの支援や相談会の開催・継続



### 1-2 町民ニーズの把握と自立を目指した個別支援の強化・見える化

#### ①桜を通じた心の復興

- 夜の森の桜並木を守り育て、富岡町復活の象徴に
- 夜の森の桜並木と西原の桜並木をつなぐ桜の植樹を行い、町民の心をつなげる象徴に

#### ②行事・祭りによるコミュニティ再生

- 将来的な桜まつりの再開をめざし、桜の季節の集いを継続
- 町外での集いの定期開催で富岡町民同士のつながりを維持
- 町内での行事の再開によりふるさとと定期的につながる機会を創出

#### ③歴史・伝統・文化の再認識とふるさと学習

- 富岡の歴史・文化を知る機会の創出
- 町史編さんや副読本作成によるふるさと教育・生涯学習の実施
- インターネットなどを通じ、富岡の歴史や文化、行事などを配信



### 1-3 公営住宅の整備と町内の土地建物管理の支援

#### ①先行整備の公営住宅は低線量の地域に

- 公営住宅を曲田・岡内地区などに先行整備
- 集合住宅・戸建て住宅・土地の分譲など柔軟な住宅政策
- 共同住宅やグループホーム型を含め高齢者、障がい者向け住宅の整備
- リフォームでの空き家の有効活用、既存集合住宅の公営住宅化を検討

#### ②津波被災住民や自宅に住めない町民の住宅整備

- 津波被災地域の住民向け災害公営住宅を確保
- 帰還困難区域の住民や、居住制限・避難指示解除準備区域の自宅が住める状況にない町民向けの公営住宅を整備
- 新たに富岡町に居住する住民向けの住宅用地確保や、町内の土地・建物情報を提供する仕組みづくり

#### ③町内の土地、建物などを管理する体制・仕組みづくり

- 町内の土地、建物、農地、お墓などを管理・保全する仕組みづくり
- 空き家の保守、管理、売買や賃貸などのマッチング支援



## 2. インフラ復旧・拠点整備プロジェクト

### 2-1 住民のための復興拠点の整備

#### ①既存設備・施設市街地の最大活用で復興の第一歩

- 上下水道など既存施設を最大活用し岡内・曲田地区を復興拠点の核に
- 商店、診療所、災害公営住宅を集約して市街地を再生
- 拠点地区に町民が集える交流施設を設置
- 情報発信の拠点を設け世界に発信する“とみおかの今”

#### ②夜の森地区と富岡地区を結ぶ地域の活用

- 役場の再開による復興の取り組みの実施と帰還する町民への支援
- 町民や研究者など様々な人が情報共有・発信できる施設“学びの森”の活用
- 産学官連携拠点や研究機関の誘致で新たな産業技術を創出

#### ③スポーツ施設などの活用

- “スポーツが盛んな町とみおか”の再興
- スポーツ施設の活用を通じた健康増進と交流促進



### 2-2 町と町民がともに考えた復興祈念公園

#### ①複合災害の教訓を継承

- ろうそく岩など震災で姿を変えた町のシンボルは、写真や映像などで後生に伝承
- 被災パトカーなどの町が保存した震災資料を公開
- 東日本大震災及び原子力災害に関する記録を保存し公開

#### ②魅力ある拠点として整備

- 富岡漁港を復旧し、海洋調査に寄与するとともに生業を復活
- 海岸堤防の背後地に津波被災を兼ねた遊休グリーンベルトを整備
- 海岸線と国道6号を結び避難道路を整備
- 富岡駅前地区を拠点に公共交通機関をネットワーク化
- 公園内への桜の植樹を通じて復活させる町民の誇り



### 2-3 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備

#### ①広域幹線ネットワークの整備促進

- 国道6号・常磐自動車道の4車線化、県道広野小高線の早期整備、県道小野富岡線、国道114・288号の拡幅などを要望

#### ②鉄道の早期再開と移動時間の短縮

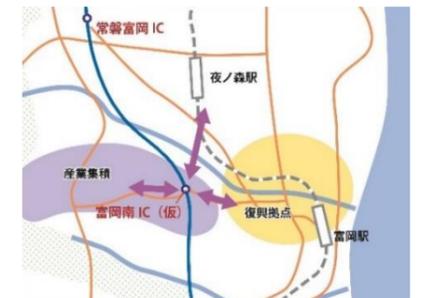
- JR常磐線の早期再開
- 首都圏への移動時間の短縮

#### ③常磐道 富岡南IC(仮称)の設置

- 災害時の早期避難路の確保と救急・消防など緊急車両の迅速性確保
- 町中心部へのIC設置により、アクセスを飛躍的に向上

#### ④生活交通基盤の整備

- 面的に町内を走る路線バスの運行再開
- 周辺市町村との連携による路線バスの再開・拡充



### 3. 産業再生・創出プロジェクト

#### 3-1 農業・農地再生に向けた取り組み

##### ①農地の保安全管理

- 高齢者、離農者、遠方避難者など、農地保安全管理が困難な方が対象の農業復興組合を立ち上げ、営農再開に向けた保安全管理を実施
- 治水効果による災害の未然防止、生態系の維持など多面的機能を有する農地の保全
- 除染後の農地の地力回復のため、様々な堆肥を用いた実証実験を実施

##### ②農作物風評被害対策の推進

- 農産物の放射線量検査を十分に実施し安全性を確認、発信
- 県、JA、土地改良区などの関係機関との密な連携で農業復興をめざし、農地の有効活用での地域振興

##### ③農地を活用した新たな産業おこし

- 飼料用作物、非食用作物を含めた「売れる」作物の栽培を促し、販路拡大を推進



#### 3-2 エネルギーを中核とした産業によるまちづくり

##### ①原子力に依存しない「新たなエネルギーの創出」

- 原子力災害を経験した原発立地町の使命として、原子力災害を克服し再生する姿を発信
- エネルギー供給基地に留まらない、関連産業などの集積による安定した雇用の創出
- 滝川ダムを活用した小電力発電などの再生エネルギーの導入

##### ②売電益の一部を地域に還元

- 農業生産団体や地元企業への支援による地域全体の経済活性化
- 先端技術研究施設などの誘致と地元企業の連携による“産業が産業を生み出す”仕組みづくり



#### 3-3 「イノベーション・コースト構想」拠点施設等の誘致・具現化

##### ①国際産学連携拠点（国際共同研究施設）

- 廃炉などの研究開発・人材育成の拠点、ベンチャー企業の創出促進
- 役場や国・県などの関係機関など富岡町の充実した都市機能の再開・連携で拠点整備を図り、人々の交流拠点として更なる発展
- 国際産学連携拠点施設に続く教育・学術・研究機関や企業などの誘致を視野に入れた拠点整備
- 当該施設の供用開始までに、国・県等と一体となって国内外の研究者が安心して生活できる環境を整備

##### ②アーカイブ拠点

- 地震・津波・原子力・風評などの複合災害の教訓や知見を後世に継承、世界に発信
- 富岡駅付近など復興拠点内の新たな施設整備をめざすとともに既存施設を活用
- 他地域に先駆け進めている震災遺構の保存活動を強化、子どもからお年寄りまで多くの町民が関わることのできる事業を展開

##### ③新たな産業集積

- 富岡町の魅力や利便性を最大限生かした拠点施設の誘致、産業集積

### 4. 福祉・教育プロジェクト

#### 4-1 子どもたちの意向の尊重と子供の教育環境の整備

##### ①教育環境の整備

- 未来を担う子どもの声を町の取り組みに反映する仕組みづくり
- 避難先での学校生活を含めた、町外での教育環境の改善
- 子どもたちが抱えている「誇り」を尊重し、大人たちに発信する仕組みづくり
- 富岡について学び、愛着を抱ける「ふるさと教育」の推進
- 町内の学校、生涯学習施設・運動施設など文化施設の再開・利活用



#### 4-2 心身ともに健康で安心して生活ができる医療・福祉の充実

##### ①帰町に向けた取り組み

- 町立仮設診療所の整備
- 地域医療の再構築に向けた二次医療を担う国・県立病院の誘致
- 高齢者などが共助の精神で過ごす共同生活型住宅の整備
- 高齢者、障がい者などへの見守り体制の整備と介護施設の再構築

##### ②避難先での生活支援

- 情報提供・相談体制の強化
- 地域支え合い体制づくりの推進
- 避難先での仮設診療所の運営と郡立診療所の設置支援
- 高齢者サポートセンターを中心とした高齢者への生活支援

##### ③疾病など予防の積極的な推進

- 健康診査・各種検診の実施と健康づくり事業の推進
- 健康教育・相談事業の実施
- 疾病・介護予防の総合的な推進



#### 4-3 町民の放射線健康管理の充実

##### ①放射線被ばく検査体制の推進

- ホールボディカウンターによる内部被ばく検査の受診率向上
- 甲状腺検査の受診率向上
- 県民健康調査(健康診査含む)の受診率向上

##### ②放射線と健康に関する啓発活動

- 放射線の基礎知識を習得するための学習会の開催
- 放射線に関する相談体制の充実
- 健康手帳・個人積算線量計の活用促進

##### ③町内放射線モニタリングの充実

- 継続的な町内放射線モニタリング(空間線量、土壌、食品、農産物、水質など)の実施
- 測定結果を町民の日常生活に役立てるための情報提供



## <6つのゾーン>

### 1. 市街地復興先行ゾーンの形成 (中央・本町・曲田)

- 町の強みである社会インフラを最大限に活用するため、市街地復興先行ゾーンと位置づけます。
- 比較的線量が低く、上下水道が整備されている岡内・曲田地区において、富岡町再生の一步として、先行的に市街地復興を進めます。

### 2. 市街地連係ゾーンの形成 (王塚・役場・学びの森)

- 先行的に市街地復興を進める「岡内・曲田地区」と、中長期的に再生を進める「夜の森地区」との中間にある王塚地区、役場・文化交流センターを市街地連係ゾーンとして、有効活用します。
- 役場、文化交流センター、総合スポーツセンターなどの既存施設を生かし、イノベーション・コースト構想を踏まえた研究教育拠点として、発展的な土地利用を進めます。

### 3. 復興祈念ゾーンの整備 (小浜・仏浜・毛萱)

- JR 富岡駅の東側一帯を復興祈念ゾーンに位置づけ、地震・津波・原子力の複合災害の被災地として世界に向けて情報を発信します。
- 福島第一・第二原発に挟まれた富岡漁港を活用し、「原発被災」・「ふくしまの海の視察」・「研究の拠点」をめざします。
- 復興祈念ゾーン内を走る浜街道のかさ上げや、海岸防災林造成、防潮堤整備により、津波被害を軽減します。

### 4. 農地の再生・活用ゾーンの形成 (上手岡・上郡山・下郡山)

- 基幹産業を担ってきた優良農地を有する地区では、農地再生、農作物工場、再エネ、各種産業集積・誘致地など様々な利活用を進めます。
- 常磐富岡 IC と夜ノ森駅に近接する高津戸地区などは、様々な有効利用が想定されるため、将来的にはアクセス利便性を利用した土地利用の検討を行います。

### 5. 広域ネットワーク拠点“富岡南 IC(仮)”の新設と「産業集積ゾーン」の形成 (上本町・赤木・中央・本町)

- 当面の二地域居住や、長期待避、町とのつながりを担保する一つの方法として、避難先と富岡町のアクセスを向上する常磐道富岡南 IC の新設をめざします。
- 中長期的には、IC の新設による、大都市と富岡町とのアクセスの飛躍的な向上を活かし、赤木地区の富岡工業団地と連携した産業集積地帯としての展開をめざします。

### 6. 「再生発展ゾーン」の形成検討(夜の森・小良ヶ浜など)

- 浜通り屈指の観光資源であり、町民の誇りである“桜”を有する「夜の森地区」並びに優良な農地を始めとする多様な利活用が望める土地を有する「小良ヶ浜地区」を再生します。
- 道路・上下水道などが整備された住宅地が集積される「夜の森地区」の再生並びに多様な土地利用の可能性を持つ「小良ヶ浜地区」の再生を進め、富岡町復活の象徴とします。
- 具体的な土地利用の検討は地区の除染を前提に進め、国には『帰還困難区域』の除染実施を強く求めます。

## <土地利用のゾーン配置>

